

本学入学生の和裁の実態調査報告

—和服に関する知識と理解へのアプローチ—

古 幡 充 代

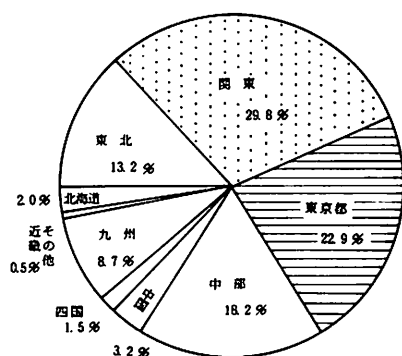
I 緒 言

近年大学への進学者は、入学試験に備え進学コースに籍をおくため、家庭科の必修2単位も十分履習しておらず、まして被服実習の経験も少ないまま、短大家政科へ進学してくるものが多い。特に和服製作の経験は極めて乏しく、一番基礎となる運針の実力も非常に低い現状である。民族衣服としての和服が、活動上、能率上、衛生上などの点から、いろいろ問題もあるが、近頃は、社交用、礼装用として、あらゆる機会に正装として用いられている。また夏のゆかたは、くつろぎ着として、お祭やお盆の行事の中で郷愁をさそう日常着であり、和服は大きな意義を有することも事実であり、種々の問題はあっても、洋服と和服を併用使用する生活は、当分続くと考えられる。このような現状から、女性としてまた将来の家庭経営の責任者となる家政科の学生にとって、被服構成和裁の履習は意義あるものとするのである。

そこで本学入学生の和服に関する知識と理解が、どの程度のものであるか、その実態を把握することは、指導上、意義あることと考え入学直後にこのような点について調査を行って来たので、集計し改めてその推移をみると共に、今後の指導に役立てたいと思う。

II 調 査 方 法

1. 調 査 対 象



昭和45年入学生～昭和53年4月入学生実数1741名を対象とし、入学直後アンケート形式により回答を求めたものである。本校入学生の出身地は、年次により多少の変動はあるが、表1～1.に現れた様に、全国的に分布しており、関東地方、東京都で約半数以上をしめている

(図1～1) 出身地別 S45年～S53年平均

次に中学校、高等学校のいずれか一方または、両方で被服実習のうち、和服を製作したことのあるものは、表1～2の通りで、全く製作しないもの、家庭一般の履習をしていないものも少数あり、地方別にそれがかっきり現われていた。中学校での和服製作のほとんどが、ゆかたの製作で、中には改良着も含まれている。これは中学2年生で休養着として、「ひとえ長着、またはパジャマ」の製作例が示されているが、実際は生徒の実生活に即して、パジャマを指導している学校が多い。高等学校では、女物ゆかた、ウール単衣、男物ゆかた、こどものきもの、羽織または茶羽織、袷長着、肌じゅばんなどで、中には道行コートを製作している家政コース出身のものがある。

(表1～1)

中学校及び高等学校での和裁実習を経験したもの		
	中学校	高等学校
北海道	33%	23%
東北	20%	55%
関東	13%	44%
東京	7%	23%
中都	16%	55%
近畿	0	0
中国	27%	43%
四国	23%	27%
九州	34%	47%

2. 調査項目

調査項目は次の各項目である。

1) 日常生活の中での和服に関する質問としての6項目

- △ 今までに和服を着たことがありますか。
- △ ゆかたを自分で着られますか。
- △ 帯(半巾帯例えば文庫結び)がむすべますか。
- △ ねまきには何を着ていますか。(パジャマ・ネグリジャ・きもの・その他)
- △ あなたの家族で和服を着るのは誰々ですか。
- △ あなたの家族でいつも和服ですごすのは誰々ですか。

2) 和服の知識に関する質問として5項目

- △ 単衣長着ということばを聞いたことがありますか。
- △ おはしりを知っていますか。
- △ くりこしを知っていますか。
- △ 運針をしたことがありますか。

△ 三つ折りぐげができますか。

3) 和服のイメージに関する質問2項目

△ 成人式などの振袖，訪問着などの和服の嗜れ着姿をみての感想。

△ 自分も着てみたいと思うか。

4) 和服への興味に関する質問

△ きものに対して興味がありますか。

Ⅲ 調査結果及び考察

1) 日常生活の中での和服に関する質問としての「今まで和服を着たことがありますか」については、ほとんどが着用している。しかし全くきもの袖に手を通したことがないものもある。

(表 1 ~ 2)

単位：％

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
着たことがある	92.1	93.0	94.0	97.2	95.2	94.5	92.0	98.3	99	95.1
着たことがない	7.9	7.0	6.0	2.8	4.8	5.5	8.0	1.7	1	4.9

「ゆかたを自分で着られますか」については、S45年以降次第に着られないと答えたものが増加しているのが、目立っている。

(表 1 ~ 3)

単位：％

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
着られる	48.0	60.0	69.4	62.7	48.1	53.6	44.9	40.7	35.1	50.6
着られない	52.0	40.0	30.6	37.3	51.9	46.4	55.1	59.3	64.9	49.4

「帯」にいたっては、そのほとんどが結ぶことが出来ないが、他の人にはむすんであげられることを考え合わせても帯結びは、むずかしいし、自分でむすぶことは少い。着物は着てみたいが帯がむすべないので……という点は今後の大きな課題と思う。

(表 1 ~ 4)

単位：％

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
大体むすべる	15.9	16.6	13.3	9.0	13.5	8.4	10.1	10.4	16.6	12.4
むすべない	84.1	83.4	86.7	91.0	86.5	91.6	89.9	89.6	83.4	87.6

「ねまき」になにを着ているかは、ほとんどがパジャマを使用しており、先頃までのゆかたを着る習慣は少い。これは休養着の製作が、ほとんどパジャマであること。ベットなど洋風生活が多いことと関連した当然の結果と思われる。ネグリジェは意外に少い。

(表 1 ~ 5)

単位：%

年度 \ 項目	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
パジャマ	91.3	90.3	97.8	93.2	93.6	89.0	88.5	92.6	86.5	91.2
ネグリジェ	11.3	18.1	7.2	11.9	13.9	17.3	20.5	15.6	22.4	15.7
きもの	3.3	3.2	2.2	1.7	0	3.0	1.0	0.4	0	1.5

※ (一部重複、一部無回答)

「家族の和服用状態」は、まず父親は 29.6%、母親は 87.5%が、何らかの時に和服を着ている。

「いつも和服ですごすひとは」では、大正、昭和生まれの両親では、着物を平常着にしている人はいない。祖父、祖母に関しては、極く少数の回答しか得られなかったので今回の家族の対象に入れなかった。

2) 和服の知識に関する質問の結果は「単衣長着」(ひとえながぎ)ということばを聞いたことがあると答えたものは、割合に多く、中学校での休養着に出ているためと考えられるが、年次順にそれが減少し 49 年以降、逆に聞いたことがないと答えたものが多くなって来ている。

(表 1 ~ 6)

単位：%

年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
知っていた	72.8	80.2	64.4	66.4	53.4	55.2	46.4	48.5	45.3	57.7

「おはしょり」は知っているものが意外に少く、年々減少の傾向にある。家庭内での日常用語から、きものに関することばが少くなっていることが察せられる。少くとも母親が姿見の前できものを着る機会も少く、長いきものがおはしょりによって短く着つけられる過程を不思議なものをみるように見とれていた母と娘の生活がなくなってしまったのであろうか。

(表 1 ~ 7)

単位：%

年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
知っている	47.0	60.6	57.8	45.2	40.1	50.2	55.0	52.4	43.7	50.0

「くりこし」は更に知らないものが多く、それが増加の傾向も見逃すことは出来ない。和服の知識については、きめ細かい解説をする必要を感じる。例えばきものの各部名称などについても、その説明を更にくわしくする必要があると思う。

(表 1 ~ 8)

単位：%

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
知っている	34.4	43.2	40.0	35.1	32.1	30.5	33.7	25.1	23.3	32.3

「運針したことがありますか」については、殆どが技術の上手、下手は別として一応経験しているが、全くないと答えたものもいた。

(表 1 ~ 9)

単位：%

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
運針したことがある	99.3	92.9	96.7	92.1	95.1	92.0	93.9	90.9	91.5	93.5

「三つ折りぐけ」については出来ないものが多いのは、くけ方の方法が理解出来ないこと、また例えば折りぐけ、まつりぐけなどと区別をはっきりさせると、結果は異なったものとなったと思われる。ここでも順次出来ないものが多くなっている。

(表 1 ~ 10)

単位：%

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
三つ折りぐけが出来る	62.7	60.0	52.2	54.2	47.1	33.1	33.7	27.3	32.3	43.1

3) 和服のイメージに関する質問

「振袖姿をみてどう思うか」では殆どが、美しい、すてき、自分もぜひ着てみたいと答えたものが多い中で、全く関心がないと否定的な答えをしたものもあった。

(表 1 ~ 11)

単位：%

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
私も着てみたい	77.5	69.7	73.9	87.5	72.7	92.4	76.0	84.4	72.2	75.1

「成人式」のよそおいという問には、振袖など和服を着たいと答えたものが半数以上で、その他は洋服、まだわからないものがある。成人式の和服の着用は種々問題はあっても、着てみたいという卒直な思いは感じられる。

(表 1 ~ 12)

単位；%

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
成人式は 和服を着たい	71.0	76.2	70.6	77.6	63.0	80.2	77.8	75.8	74.9	74.4
その他のもの	29.0	23.8	29.4	22.4	37.0	19.8	22.2	24.2	25.1	25.6

「きものに興味もてるか」に対する結果は次の通りである。

(表 1 ~ 13)

単位；%

項目 \ 年度	S45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
興味もてそう	60.3	58.7	55.6	55.4	54.0	58.2	61.4	55.8	65.0	58.3
興味もてない	39.7	35.5	42.2	41.2	42.2	37.6	34.0	42.4	32.3	38.5
わからない	0	5.8	2.2	3.4	3.8	4.2	4.6	1.7	2.7	3.2

IV む す び

和服は日本の風土の中で永い伝統にささえられ今日に至り、育成された民族衣裳である。日常着として機能性に欠ける点はあるとしても、冠婚葬祭など、私たちの社会生活に欠かせない衣服であることも、まちがいない。このたびの調査により、小学校、中学校、高等学校と実習内容も地域により多少の違いはあるが、家庭科教育の中ですら、和服ばなれは、はっきりと現われている。しかし「きものが好き、着てみたい」と答えたものが多くいることは、和服は好きだけれど、自分で着られない。着つけがめんどうということにつながり、被服構成の指導上、多くの問題を提起していると考えられる。

着られないから着ないということは、昔から親から子へ当然教えられた日常のしつけであった着付けが、特殊なけいこ事に扱われ着付け教室へ通うという事実にあられている。

そこで短大での被服構成教育は、和服に興味なし・またはわからないと回答している41.7%の学生に如何にして興味を持たせ理解させるか。非常な努力を要することと思う。又興味もてそうと回答している半数以上のものに、新しい和服の魅力を認識させる努力も合わせて持たねばならない。先づ自分の和服を製作し出来上がったものを着付けする。自分で着られるところまで繰返し着付けの指導を行うことが大切と思う。また和服の縫製がむずかしい、手縫いはめんどうという先入観が、和服をますます敬遠する方向に向けてしまっている。運針は最も基本となる技術として徹底指導を行う。そして一針一針仕上げてゆく、縫うことの喜びを見出すよう指導が必要と思う。縫うことの喜びを飛びこして、和服は着

て楽しむものによってしまっていることが現代の消費生活の一面として感じられる。

「つくり出して」「着てみる」ことが、もっと重視されるべきで、ともすれば技術的な面が軽視される傾向にある現在、製作することによって、興味も意欲もわき、着装して、和服の楽しみも味うことが出来る。そして次の段階として、着付けのらかな寸法の設定は、人体の機能のつながり、着心地の良さにも関連し、理論と実際が着装により確実なものとして完成されるのである。

現代の社会生活、家庭生活の中にあって、被服構成指導をするうえで、学生自身の能力、興味、意欲に対して適切な指導をするための、研究、心構えがより肝要であることを痛感した次方である。

本調査にあたり調査に協力いただいた助手各位に改めて、感謝と御礼を申し上げます。

(本学助教授 被服構成 } 担当)
和 裁